（前ページの続き）

「聖マルティンの家」では、現在、畑では日本の野菜、食用の動物を飼育し、少しでも収入源として確保できるようにと頑張っている様です。

世界の情勢は、いつ変わるとも分からず、日本もまた然りです。
自分たちの力で、本当の自立が出来るよう、試行錯誤しているようです。

しかしながら、まだしばらく、皆様のお力が必要です。どうぞこれらも、ボリビアの「カペディス（聖マルティンの家）」をよろしくお願いいたします。

+++　お詫びとお願い　+++

「エルピス会事務局の電話がなかなかつながらない」
とのお話を伺いました。全くその通りで、申し訳ございません。
（俵が家を不在にすることが多く・・・）

必要な場合は、出来ましたら Fax を入れて頂ければ、遅くなってもご連絡差し上げられるかと思います。Fax、電話ともに・・・　093-201-3692
よろしくお願いいたします。

2016 年5月吉日
エルピス会　俵　靖子

ELPIS エルピス会便り Vol. 42

ＣＡＰＥＤＩＳを支援してくださる皆さま方へ

今年もまた、多くの方々との出会い、温かい励まし支援に勇気づけられ、日本での２か月を過ごすことができました。
お一人おひとりにお礼を書きたいのは山々ですが、それができない現状をお許しくださるよう願うしかなく、心苦しく思いながらペンを取りました。

特に今年、初めて札幌でお世話になり、多くの方々とのはじめての出会いと支援をいただいたこと感謝でいっぱいです。

マリア・ルースとの旅で、彼女が本当にびっくりしていたことの一つが、本当にたくさんの方々・・・しかも高齢の方、また障害を持たれた方々の支援を受けて CAPRDIS が成り立っているということを目で見て知ったことです。彼女はこの経験を通してここで彼女なりに頑張ってくれるでしょう。
他にも受けたたくさんの良い経験を活かして私と一緒に CAPRDIS を盛り上げてくれるものと信じています。

そのあと兵庫県にある「メインストリーム協会」に５日間ほどお世話になった私たちですが、その時、障がい者で代表の廉田さんが「自立」について、彼らが取り組んでいる方針を話してくれました。
私も時々間違えてしまう、上からあるいは“健常者“の目線、考え方、やり方で自立させよう、あるいは自立できないと決めつけていないだろうか。
一生懸命障がい者のために取り組んでいるつもりなのですが、果たしてそれが彼らの望んでいることなのだろうか。もっともっと彼らに場を与えるべきだと反省させられました。

いつも皆さんが心配してくださることの一つに、あなたも無理しないで、もう若くないのよ、もっと年を取ったらどうするつもり？この家継いでくれる人はいるの？と。
今回やっと答えが出たような気がしました。

そうです、この家を障がい者たちで運営すればいいのです。
メインストリーム協会のように。

この家を利用した多くの若い障がい者たちの中に、充分才能を持っている若者がいます。何かをやりたいができない環境に置かれています。私のようなものは後ろに回って、必要であれば経験を少し分かち合いながら彼らとともに生きていければと、そんな気持ちになりました。
そう思うととても肩の荷が軽くなったように感じました。そうすればＣＡＰＥＤＩＳ障がい者自立支援の家の本来の目的にもっと近づくでしょうし、それ以上の場になるでしょう・・・と思います。

（次のページへ）